

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)  
 在外研究  
 2014年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職		氏名	
	観光学部・教授		杜 国慶 印	
研究テーマ	創造力による都市観光の進展			
全研修期間	2014年4月1日 ~ 2014年9月6日(157日間)			
経費	年度経費	SFR申請額	所属学部からの補助額	SFR助成額
	2013年度	2,021,980円	500,000円	1,521,980円
	2014年度	1,473,723円	500,000円	973,723円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	英国	COMPAS(Centre on Migration, Policy & Society) University of Oxford		

研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)

「創造産業」という概念は、英国のブレア政権が国のイメージを一新し低迷した景気を回復させるために、本格的に推進した文化政策であり、「個人の創造性・スキル・才能をベースとし、知的財産権の活用を通じて、富と雇用を創出しうる産業」と定義されている。創造性に関する研究は主にRichard FloridaおよびCharles Landryなどの著作によって展開されてきた。特に、Floridaの研究は独自の視点から定量的な指標(3Tなど)を用いて、北米の都市の創造性およびクリエイティブ・クラスの受容について研究してきた。しかし、いずれの研究も都市全体の総合力を計測したものの、都市内部の詳細な構造についての研究は不足している。本研究は、都市の内部また都市を拠点とする周辺地域の創造力による観光地化に注目し、観光地理学の視点から、詳細なスケールでの考察を試みたい。特に、近年、都市再生の万能薬とも言われている都市観光との関係を考察することによって、都市に居住する住民またはクリエイティブ・クラスだけでなく、外部の来訪者と都市創造力との相互関係も視野に入れ、より客観的に都市の創造力を計る。

本研究は、創造産業の発祥地と言われる英国においてLondonなどの都市を対象として、創造力と都市観光の関係を明らかにしたうえで、創造力による都市観光の進展メカニズムを解明しようと試みる。

まず、滞在先のオックスフォード大学では収蔵図書と資料が豊かな図書館を利用し、英国の創造産業と都市の創造力について資料と文献収集を行った。特に、研究対象都市のLondonとGlasgow、Manchester、Edinburghの4都市については都市観光と創造産業の文献を検索して熟読した。世界経済のグローバル化に伴い、知識情報経済化が本格化したことにより、知的サービスを提供する創造性に溢れた労働力が主要な経済資源になっている。こうした背景の下で、創造産業およびクリエイティブ・クラスなどの都市の創造力が都市の発展に重要な役割を果たしている。そして観光産業もまた、都市の創造力から多大な影響を受けて著しく進展している。したがって、創造力と都市観光の関係を明らかにし、創造力による都市観光の進展メカニズムを解明することが非常に

**研究成果の概要** (つづき)

重要である。次いで、受入先の COMPAS で行われたセミナーにも積極的に出席し、オックスフォード大学の教員と他国からの研究者と意見・情報を交換して良い示唆を受けた。

そして、本研究の重要な一環として、滞在先のオックスフォードに近い London には頻繁に出かけて現地調査を実施した。2014 年 3 月 14-28 日に Glasgow、Manchester、2014 年 6 月 16-22 日に Edinburgh を訪問し、現地調査を行った。Glasgow ではクライド川沿いにあった埠頭や倉庫を利用してコンベンション施設とスポーツ施設を開発し、イベントまたは会議の開催を通して観光客を都市へ誘致し、都市観光と都市の活性化に貢献する。加えて、ウォーターフロントでは博物館を開発して市民に無料で提供し、市民の余暇に役立つことを通して、都市のアメニティーを向上させる。

Manchester は産業革命の発祥地でもあり、産業と科学という理念を活かし、荒廃した工場と市場を利用して開設した科学・産業博物館が都市観光の重要なスポットとなっている。そして、広大な倉庫でカジノを開業するなど大胆な開発も行われた。

Edinburgh は従来の観光のうえで、音楽祭および小説「ハリー・ポッター」を活用した都市観光が展開され、従来の観光と共存している観光パターンが現れた。そして、改築した市役所を新たな観光名所となったのも創造産業との関係が深い。

創造産業には政府サポートと民間自主運営など様々な形態があり、形態によっては観光との関わりも異なることも確認できた。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを 5 項目で記入)

[ 創造産業 ] [ 創造都市 ] [ クリエイティブ・クラス ] [ 都市観光 ] [ 都市再生 ]

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①~④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

杜 国慶: 日本における帰化人口分布の時空間変化に関する考察. 立教大学観光学部紀要, 第 16 号, 2015 年 3 月, 74-88.

杜 国慶: 中国の労働力輸出. 山下清海 編著『改革開放後の中国僑郷—在日老華僑・新華僑の出身地の変容』, 2014 年, 明石書店, 278p, 32-57.

山下清海・小木裕文・松村公明・張貴民・杜 国慶: 在日老華僑および新華僑の僑郷としての福清. 山下清海 編著『改革開放後の中国僑郷—在日老華僑・新華僑の出身地の変容』, 2014 年, 明石書店, 278p, 84-117.

山下清海・小木裕文・張貴民・杜 国慶: 温州近郊青田県の僑郷—日本老華僑の僑郷からヨーロッパ新華僑の僑郷へ—. 山下清海 編著『改革開放後の中国僑郷—在日老華僑・新華僑の出身地の変容』, 2014 年, 明石書店, 278p, 141-180.

山下清海・小木裕文・張貴民・杜 国慶: 中国残留帰国者の僑郷—黒竜江省ハルビン市方正県—. 山下清海 編著『改革開放後の中国僑郷—在日老華僑・新華僑の出身地の変容』, 2014 年, 明石書店, 278p, 182-220.

Du, Guoqing: Spatiotemporal Analysis of Naturalization in Japan. In Yoshitaka Ishikawa (ed.): *International Migrants in Japan: contributions in an Era of Population Decline*. 2014, 74-93. Trans Pacific Press, Australia. 306p.

※この(様式 2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。